

令和7年度 研究推進計画

1 研究主題について

学校教育目標	高い志をもち 夢の実現に向けて 自分らしく 他者とともに社会を創る 児童の育成
研 究 主 題	自立した学び手の育成 ～各教科と探究型学習の授業改善を通して～
主題設定 について	本校は、昨年度TKFモデルを基盤とし、授業改善を行い自立した学び手の育成を図ってきた。その結果、児童の思考力・判断力・表現力は高まり、教科や特別活動等の話し合い活動に好影響を与えている。しかし、未だ課題が自分事にならず他者に任せている児童や指導者に与えられた課題には取り組むことができる児童が多く、自立した学び手を育成することが重要な課題である。 そこで、今年度は、3つの柱を機能させ、授業改善を図る。①授業の基盤づくり、②TKFモデルを取り入れた単元・授業展開づくり、③探究型学習の単元構想づくりを行う。②各教科で身に付けた資質能力と③生活科及び総合的な学習で付けた資質能力を往還させることで、自立した学び手の育成を図る。
研究仮説	各教科と探究型学習の授業改善を行えば、自立した学び手を育成できるであろう。 ※自立した学び手とは、自ら課題を設定し、他者との対話と学びの調整を繰り返しながら学びを深め、次への学びへとつなげられる学習者とする。
研究内容	授業改善を3つの事業に分けて行う。 ①授業研究充実事業 ②授業の基本の「基」推進事業 ③探究型学習モデル事業
研究方法	「2 研究内容の具体」で①～③の事業それぞれについて研究方法を示す。
検証の指標 及び 検証方法	「2 研究内容の具体」で①～③の事業それぞれについて検証の指標及び検証方法を示す。

2 研究内容の具体

①授業研究充実事業

ア. 研究内容及び検証の視点

<研究内容> ①・教科の特性を生かしたTKFの研究をし(教材の特性シート)、集めていくことで、授業力の向上を図る。TKFモデルによる授業づくりを学年部会や教科部会間で共有・改善をする。 ②学習内容を自覚化させるために、まとめと振り返りの工夫改善をする。	→	<検証の視点> ・TKFモデルを取り入れた「思考のプロセス」を明確にし、思考活動と表現活動を効果的に関連させた課題設定や発問の工夫によって、児童の思考力・判断力・表現力を高めることができたか。 ・本単元での学習内容を自覚化させることで、活用する力を高めることができたか。
---	---	--

イ. 検証の指標及び方法

指標(対象・方法)	検証の方法	目標値
児童・テスト結果	単元末テスト「思考力・判断力・表現力」の達成値達成率国語 80%以上, 算数 70%以上, 理科 80%以上, 社会 80%以上の児童を 85%以上にする。前期後期の2回検証（後期単元末テストは, 算数は, 2 学期末たしかめよう, 社会・理科は3 学期制のテストを購入し2 学期末のたしかめよう, 国語は2 月上旬までに後期単元末テストを行う）	国語 80%以上, 算数 70%以上, 理科 80%以上, 社会 80%以上の児童を 85%以上
教職員・自己評価	「教科の特質に合わせた TKF を計画・実施・改善した」の評定値を毎学期に検証	肯定的評価 80%以上
単元の振り返り	単元の振り返り（ノート）のB基準達成児童の割合を検証	B基準達成児童 85%以上

ウ. 研究内容の具体

①授業づくり

○教科部会で, 教科の特性に合わせた TKF を計画・実施・改善する。

- ・教科部会で, 教材の特性を捉えるための協議を行い, 学習内容を押さえる。
- ・学年部会や教科部会で, 児童の立ち止まりやズレを引き出すようなめあてや発問を設定する。
- ・教材の特性に沿った授業であったか, 振り返り改善案を検討する。

②学びの自覚化

○「この学習で付いた力は～」 「この学習課題で学習したことは～」 「この方法で学習したことは～」 等と単元での学びについてまとめと振り返りをする。

②授業の基本の「基」推進事業

ア. 研究内容及び検証の視点

<研究内容>

- ・話し合いのコツをもとにした変容型ファシリテーション技術の向上に係る研修を行う。
- ・インクルーシブな環境を土台とした個人の授業の基本の「基」を充実させる。



<検証の視点>

- ・ペアやグループ, 学級で対話すると, 考えが増えたり, 変化したり, 深まったりするか。
- ・変容型ファシリテーション技術の向上するように取り組むことができたか。
- ・毎月最後の学年会の時にスプレッドシートに授業改善の取り組みを書き込むことができたか。

イ. 検証の指標及び方法

指標(対象・方法)	検証の方法	目標値
児童・アンケート	「ペアやグループ, 全体で対話すると, 考えがもてたり, 変化したり, パワーアップしたりしますか。」についての肯定的回答の割合を検証	肯定的評価 80%以上
教職員・アンケート	「変容型ファシリテーション技術の向上するように取り組むことができたか。」についての肯定的回答の割合を検証	肯定的評価 80%以上
教職員・アンケート	毎月最後の学年会の時にスプレッドシートに授業改善の取り組みを書き込むことができたか, 翌月に検証	100%

ウ. 研究内容の具体

①話し合いのコツをもとにした変容型ファシリテーション技術の向上に係る研修を行う。

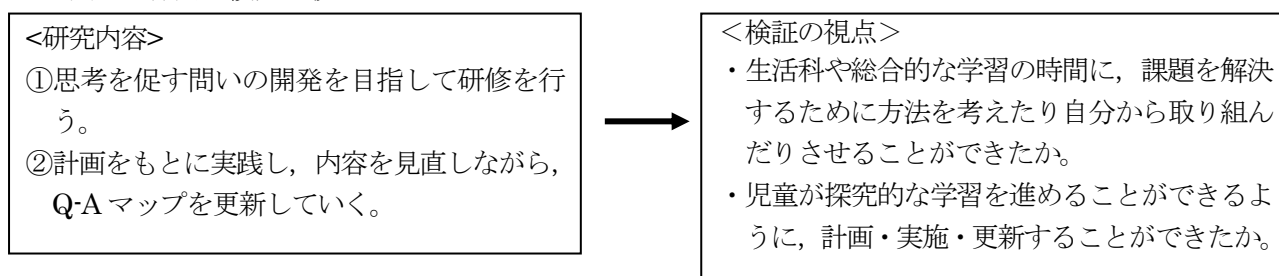
- (1) 水平型ファシリテーション
- (2) 垂直型ファシリテーション

②スプレッドシートを活用し、インクルーシブな環境を土台とした個人の授業の基本の「基」を充実させるとともに、学校全体で授業改善に取り組む。

- (1) 授業の基本の「基」の見直し
- (2) 学校全体の取り組みなるように、個人で取り組む月と全員で同じ項目に取り組む月を設定する。

③探究型学習モデル事業

ア. 研究内容及び検証の視点



イ. 検証の指標及び方法

指標(対象・方法)	検証の方法	目標値
児童アンケート	「生活科や総合的な学習の時間に、課題を解決するために方法を考えたり自分から取り組んだりしている。」について、肯定的回答の割合を学期末に検証	肯定的回答が80%以上
教職員自己評価	「児童が探究的な学習を進めることができるように、計画・実施・更新している。」について、肯定的回答の割合を学期末に検証	肯定的回答が80%以上

ウ. 研究内容の具体

①思考を促す問いの開発

- ・年度初めに、探究型学習や思考を促す問いの開発について研修を行う。
- ・児童の思考を促す問いになっていたかどうか、ブロックごとに検証する。

②Q・A マップの深化

- ・学期末に、学年ごとにQ・A マップの見直しや更新を行う。

3 研究構想図

《学校教育目標》

高い志をもち 夢の実現に向けて 自分らしく 他者とともに社会を創る 児童の育成

《十日市中学校区 めざす資質・能力》

主体性 自らの役割や責任を認識し目的をもって意思決定する

表現力 自他の立場を尊重し、表現する

協働性 よりよい社会や生活をつくるために、行動する

自立した学び手の育成
～各教科と探究型学習の授業改善を通して

活用・
発揮

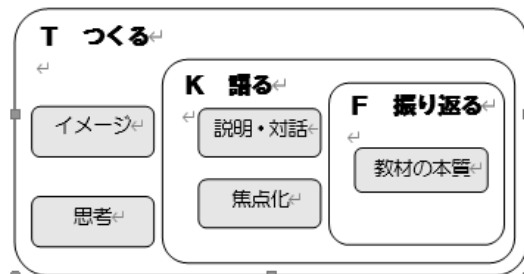
授業研究充実

- 授業づくり
- 学びの自覚化

探究型学習モデル

- 思考を促す問いの研究
- Q-A マップの深化

TKFモデルを取り入れた授業づくり



汎用性

各教科等で育成された資質・能力

探究型学習で育成された資質・能力

授業づくりの**基盤**

話し合いのコツを取り入れたファシリテーション
インクルーシブな環境による支援体制の確立

授業の基本の「基」推進